



Vol. 25 No. 1 (No. 288) 2015. 4. 15

東洋英和女学院大学図書館

“スマホ”の魅力と落とし穴

増田 弘

遅まきながら、私も昨年末に長年愛用した携帯電話からスマートフォン、いわゆるスマホに切替えた。正直申して、これほどスマホが便利なものとは想像していなかった。メールや写真はもとより、最新ニュースから書籍、映画、地図、動画、音楽、ゲームなど際限なく、まさにハマッてしまった。とくに自分のゴルフ・スイングをチェックできたことの感動、また“ライン”で瞬時にゼミ生たちと交信できた感嘆など止まるところを知らない。こんな小さな長方形に、地球規模の膨大な蔵書・データばかりか、数世紀にも及ぶ世界人類の文化と叡知がギュッと詰め込まれていれば、驚嘆しない人などいないだろう。

だが待てよ、喜んでばかりいて良いものかと反問した。それは昨冬であったか、NHK「クローズアップ現代」が放映したテーマが頭をよぎったからである。番組は立花隆をゲストに迎えて“スマホの功罪”を取り上げ、論より証拠とばかり、筑波大生をモルモットとする実験を行っていた。その実験とは、学生たちに同じ研究課題を与えて、図書館を頻繁に利用する組と、ほとんど図書館を利用せずにスマホに頼る組との違いは一体どのようなものかを調べよう、との興味深い試みであった。

その調査結果は歴然であった。図書館利用組は、課題に関する書籍を探し出し、それを読みこなす中で重要な部分を抜き出し、その上で自己の批評や見解を結論とする傾向が見られた。一方、スマホ利用組は、瞬時にキーワードから該当部分を抽出し、その部分と部分を接合して組み立てる、いわゆるハサミとノリだけのやり方であって、結局自己の見解も結論も出せぬままで終わったのである。

この結果と違いをどう評価するかは指摘するまでもなからう。スマホ利用組は、研究にとって不可欠な独自性や独創性など主体的な取組み姿勢が欠落しているとの明白な証拠が示されたのに対して、図書館利用組は図書を巧みに利用しつつ、課題に対する自己の見解をまとめるとの主体性や独自性を確保していたわけである。この相違が大学教育上いかに深刻な問題をはらんでいるかは想像できよう。昨今、授業でのレポート提出に際してインターネット上の題材を丸映しする、いわゆるコピー(Copy and Paste)が学

生の間で浸透しているからである。あの小保方事件を例に出すまでもなく、他人の見解を勝手に盗むコピペは犯罪行為であり、どの大学も厳罰対象となっている。本学とて例外ではない。

いつしかわれわれはパソコン無しでは生きられなくなった。そして今やスマホであるが、その文明の利器の価値を認めながらも、他方、その慣れや利用如何では学生諸君の学習にとって致命的な欠陥となり得る。いわばスマホの“落とし穴”を十分理解しておく必要があるといえよう。

(ますだ ひろし：国際社会学科教授、図書館長)

.....

リーダーを読んで英語力を身につけよう！

英和の学生なら既にご存知の方も多いと思いますが、最近「多読」という言葉をよく耳にするようになりました。以前からある英語学習の一つの有効な方法とされ、簡単な文章で書かれたストーリーを、わからない単語があっても飛ばして読み進め、全体のストーリーをつかむ。これにより面白さ、楽しさを感じ、たくさん読むことで知らないうちに英語力が向上するというものです。



本学の図書館にも「リーダー」と呼ばれるコーナーが1階にあります。レベル別に並んでいますので、自分に合ったものを選ぶことができます。

一方、電子ブックも約240タイトル入っています。パソコンの画面でページをめくる感覚で読むことができます。お試しください！

[使い方] 図書館 OPAC トップ (以下の記事でご紹介する新しい OPAC 入口) → 電子ブック → 多読用資料 (リーダー) をクリック。

図書館 OPAC リニューアルのお知らせ

図書館蔵書検索 (OPAC) の画面が変わりました！明るい色調で、検索も楽しくなります。検索ボックスにキーワードを入れたままタブを切り替えるだけで「本学所蔵」は勿論、「他大学所蔵」「CiNii 論文」「英和リポジトリ」「国立国会図書館」「EHIS (統合検索)」「Google Books」を同じ画面から検索することができます。また画面左側から条件を選択すれば、簡単に絞込検索を行うことができます。



(トップ画面)



※ご利用にあたっては、わかりやすい「OPAC 使い方ガイド」(図書館ウェブサイト)を是非ご覧ください。

展示ケース ～ 拡大するデジタルアーカイブ ～

今月から図書館入口展示ケースにおいて、【拡大するデジタルアーカイブ】と題してパネル展示をしています。

そもそもデジタルアーカイブとは、図書館や博物館、美術館などの所蔵資料を電子化してウェブ上で蓄積・保存・公開するシステムのことをいいます。デジタルアーカイブという言葉が使われ始めた1990年代半ばは、各機関がめいめい構築していましたが、2000年後半に複数機関を統合して検索・閲覧・利用することが可能なポータルシステムが登場することで随分と様変わりしてきています。

今展示では、ポータルシステムとして代表的な2008年に開設されたEUの「Europeana(ヨーロッパアナ)」ほか、いくつかの魅力的なアーカイブと、実際に掲載されているコンテンツ例をご紹介します。

その場所に行かなければ見ることが出来ないと思っていた作品や絶版本が、パソコンやスマートフォンからアクセスできるかもしれませんよ！ぜひお立ち寄りください。



ミニ展示コーナー

き っ かけ は マ ン ガ か ら

図書館1階赤いクッションの半円形ソファの前にあるミニ展示コーナーでは、カラフルな展示が始まりました。題して『**きっかけはマンガから — え？マンガで教養？**』
大学図書館にはとっつきにくい難しい本だけが並んでいる・・・と思っている方は必見です。ちなみにこんな視点で選んでみました・・・。

- ① マンガで学ぶ — 『まんがパレスチナ問題』『マンガ聖書の謎「死海文書」』他。
 - ② マンガの作者・主人公から学ぶ — 『「のび太」という生きかた』『ルフィの仲間力』他。
 - ③ マンガを論ずる — 『マンガと宗教』『マンガ脳』『マンガのなかの〈他者〉』他。
- このほか『日本の古典シリーズ』やスタジオジブリの作品もあります。どうぞ手に取ってご覧ください。

♪ 嬉しいお知らせ



① ILL 現物貸借の送料負担が軽減されました！

必要な資料が本学図書館にない場合、図書館間相互協力の一環として所蔵館から現物を取り寄せて本学図書館で閲覧することができますが、この制度を利用するために必要な往復の送料のうち返送料について、4月から一律図書館公費で負担することにしました。送料は片道でも700円前後しますので、今後は更に利用しやすくなります。

② 新しいデータベースが入りました！

- ・「The Sankei Archives = 産経新聞ニュース検索サービス」 朝日、毎日、読売、日経に次ぎ、産経新聞のデータベースが仲間入りしました！
- ・「日経業界・企業研究パック」 ☆就活の方必見のデータベース☆
- ・「ProQuest European Newsstand」 *Financial Times, International New York Times, Le Monde, Sunday Times, The Times* などを中心に約430誌を収録。

③ 「東京新聞」の購読を開始しました！

今月から「東京新聞」の購読を開始しました。カウンター向いの新聞架でご覧ください。

④ ホチキス、ハサミ等が自由に使えるサービスを始めます！

レポート作成時に必要となる文具を、1階コピー機横にまとめて置く予定です（4月中旬頃）。なお後から使う方のために、必ず元に戻しておいて下さるようお願いいたします。

（編集担当：宮田）